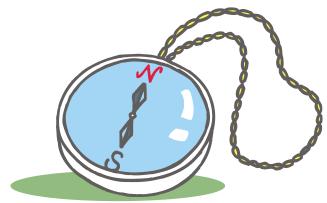


羅針盤



第33号

令和6年1月22日(月)

◆ 「好きなことを究める」それが一歩を踏み出すコツ

「Cateen (かていん)」名義のYouTube (ユーチューブ) の登録者数が126万人を超える世界的なピアニストとして有名な角野隼斗 (すみのはやと) さんを生徒の皆さん知っていますか。小さな頃からピアノコンクールでの受賞を重ねて、中学校時代には「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」の金賞にも輝いた角野さんは、「東京藝術大学でピアノを本格的に学んでみたい」という思いを持ちながらも、高校2年生くらいまでは、東京藝術大学と東京大学のどちらに進学すべきかを随分と迷われたそうです。その結果、ピアノは音大に進まなくても弾けるが、「数学を究めたい」といった思いが勝っていたことこそが東京大学への進学を決意した最大の要因となって、ジャズやポップスなど様々なジャンルの音楽に興味があった彼にとっては、音大生になってひたすらクラシックの曲を練習する日常がイメージしづらいものもあり、その一方で、数学ならいくら勉強しても苦にならないくらい好きだったことが、東京大学に進むという道を選ぶことになったそうです。彼にとっては、ピアノだけを究めるのではなく、ピアノも数学もできる大学への進学が何よりも優先されたことのようです。彼は、進路を決めていくうえで何を軸に選べばよいのかという問いかけに対して、「好きなことを究める道を選ぶべきだ」と答えています。開成中学校に通っていた3年生のときに、「みんながやっているからやってみよう」といった好奇心から、ボーカロイドやゲームの曲を動画サイトに投稿を始めたのが、YouTubeを始めたきっかけだそうです。好きが高じた結果として、「自分が面白いと思ったことはやってみる」といったスタイルは今も変わらぬままで、本格的に音楽活動を始めてからは演奏を披露する場の一つとしてYouTubeやインスタライブといったものを意識するようになってきたそうです。好きな音楽というものを、自分が面白いと思った映像とともに見せる。その結果として、「よくわからないけれど、楽しそうにしているから面白そう」と思ってもらえることを最優先しているそうです。また、先進的なことをやってはいるのだけれど、「つくり込んでいるように見せない」といったこだわりもあるそうです。いろいろなことに挑戦しながら、世界を広げ続けている彼にとっては、「失敗したらこれで終わる」といった大きな挑戦はしてはこなかったと。それでも、「臨機応変さを持ち続けることを忘れない」といったことが、彼にとっては挑戦し



続けることをくり返し、大きなリスクを背負うことなく成長し続けることができた秘訣だと言います。「好きなことを究める」もちろんこの事だけが全てではありませんが、将来役に立ちそうだからといったことだけで進路選択するよりも、好きが高じている人ほど強い意志を維持することができる人はいないと彼は考えています。好きな事があるのなら、何よりもその事を大事にして、その事の実現に向けて踏み出していくことが、結果として自分自身が後悔することには至らないはずであると。なかなか好きな事が見つからない人もいることだと私は思います。だからこそ日々の学びといったものを大切に考え、好きな事を見つけたときに勇気ある一歩を踏み出す準備を怠らずに毎日を過ごすことがとても大事なことだと思います。

